

はしがき

本論集は、金沢大学経済学部社会言語学ゼミ（代表 西嶋義憲）が編集・発行する『論文集』の第6巻です。掲載されている3編は、論文と資料からなります。最初の2編は論文です。執筆者は、当ゼミに所属する人間社会環境研究科博士後期課程2年の韓国人留学生 尹 秀美（ゆんすうみ）さんと研究生（中国人留学生）の楊 一林（よう いちりん）さんです。3編目は私の研究資料です。論文集の体裁を保つために急遽追加しました。今年度も学部ゼミ生がいないので、院生と研究生の論文が中心になりました。

最初の尹さんの論文「謝罪表現における発話理解の責任主体の日韓比較」は、日本語と韓国語の会話について、発話理解への話者の貢献度の違いを比較しています。一般に、日本語と韓国語は文法レベルにおける統語構造の類似性や敬語体系の存在という観点から、同じタイプの言語と見なされてきました。また、談話レベルについても、とりわけテキスト分析に基づいて、両言語は文章理解の責任主体は読み手にあるという主張がなされています。ところが、このような主張に対して、尹論文では会話分析を通じて、会話レベルでは両言語の振る舞いが異なり、日本語は聞き手責任であるが、韓国語は話し手責任であることを明らかにしています。

2つめの楊さんの論文「目上への『ほめ』行動について」では、日本語では一般に目上に対してほめ行動は行なえないと言われていますが、その主張に疑問を提出しています。従来なされてきた研究を概観し、目上に対する「ほめ」行動が十分に調査されていないことを指摘し、その調査の必要性和意義を論じています。

最後にある『『お見通し』発言とその翻訳』は私が現在分析中のカフカ作品における「お見通し」発言の翻訳例を集めた資料集です。これは、本年6月に開催される日本文体論学会で口頭発表するための基礎資料です。分析結果は、この学会で発表します。

＊

来年度、人間社会環境研究科博士前期課程に中国人留学生の楊一林さんが入学し、当ゼミに所属します。博士後期課程の尹さんを含めてゼミ生が2人になります。尹さんは、来年度に博士論文を提出して修了する予定です。新入生とともに、今年は気合を入れたゼミにしなければなりません。がんばりましょう。

2011年3月 西嶋 義憲